牛久市文化財保護審議委員 栗原 功

牛久村・岡田村・奥野村（明治22年〈1889年〉成立）

牛久村成立と牛久という地名の由来

牛久という地名 ―宇志久が牛久に―

飛鳥時代に入ると、第36代孝徳天皇親政(※)のもとで、国家の中央集権（大化改新といわれる改革。大化元年・645年）化が進められた。

※親政とは天皇が政治を行うこと。

中央集権化に伴い、都の難波（現大阪市）と、各国に設置された『国府（のちの県庁にあたる）』とをつなぐ道路・『駅路（国道）』が建設された。現在の牛久市域を通っていた駅路の一部が鎌倉街道になり、さらに鎌倉街道は水戸道中（街道）になった。駅路には、五里（約20キロメートル）ごとに『駅（のちの宿で、役所が設置され、公用で旅する役人に宿や馬を提供した）』が設けられ、任命された『駅長（のちの村長に相当）』が事務一切を管掌していた。牛久（のちの宿）にはこの駅が設けられていた。当時地名は『宇志久』の3文字が用いられていたが、奈良時代の和銅6年（713年）頃に『牛久』の2文字が用いられたようだ。

牛久村成立 明治22年（1889年）に（全国一斉の大合併で）

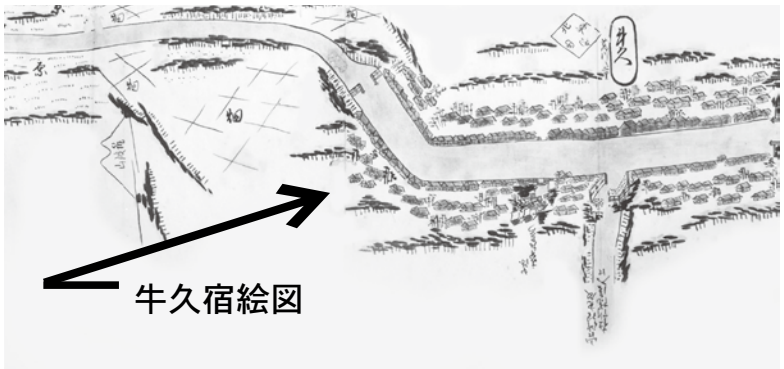
明治新政府は、武家政権における封建制度（幕藩体制）を廃止し、国家の近代化を急激に進め、その一端である地方制度の大改革も度々行われた。明治新政府が政治顧問として招いていたドイツ人法学者アルバート・モッヤが明治19年（1886年）に『自治部落制度案』を起草（憲法も起草している）して第一次伊藤博文内閣の内務大臣山県有朋に提出した。山県内務大臣はこれを基に『市町村制度』を定め、発令し、全国一斉に町村の大合併が断行されて、明治22年4月1日をもって新たな市町村が誕生した。

わが国の地方制度史上において画期的な町村合併によって、関東で水戸と横浜の2市が誕生し、全国では31の市が初めて誕生した。町村の場合、茨城県では30町2007村が『1市40町335村』に整理統合された。町村規模は内務大臣訓令標準が300戸ないし500戸であったが、合併による町村の平均規模は『462戸・2700人』であった。

牛久村成立（六カ村合併）

牛久村
城中村
新地村
田宮村
遠山村
庄兵衛新田村（一部）

新村名は、旧牛久村が大村でその歴史が最も古いところから牛久村と称した。それまでの各村は大字になった。例、牛久村大字城中。尚、牛久村は一村（岡田村と合併以前に）で昭和29年1月1日より町制を布いている。



引用：水戸土浦道中絵図（あびこ版）・提供 我孫子市教育委員会

水戸土浦道中（街道）絵図は土浦藩第3代藩主土屋篤直が、江戸幕府徳川第9代将軍家重治世下の宝暦8年（1758年）に江戸から国元土浦への帰路の際にしたためたとされている。

歴代牛久村長

明22・5・5	入江国五郎 牛久
〃27・5・5	佐野俊太郎 〃
〃27・9・5	黒須彦市 〃
〃28・11・11	佐野靖吾 〃
〃30・11・11	会美友城 中
〃31・11・11	野島与市 新地
〃36・2・2	佐野大五郎 牛久
〃40・2・2	佐野靖吾 〃
〃41・5・5	村松貞之助 田宮
大5・6・6	大沢元治 城中
〃9・6・6	塚本俊造 牛久
〃14・6・6	中島慎太郎 新地
昭12・2・2	塚本俊造 牛久
〃22・4・4	佐野有朋 〃
〃23・1・1	杉浦由之助 城中
〃27・3・3	吉田虎次郎 牛久

※昭和29年1月1日より同年3月31日までは吉田虎次郎が1日制の牛久町長として在職。

牛久村・岡田村・奥野村の区域

今回で再発見牛久の連載は終了します。ご愛読ありがとうございました。